

網走ほんりゅう教組

第409号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
5月20日

組合は人が
つくるもの

支部活動が組合を支える

組合活動は、人がつくるものです。一人ひとりの意識が変わると、組合活動も変わっていきます。

以前は、力のある組合員・影響力のある組合員がいて活動を引つ張っていただけました。しかし、そういう組合員も退職などで組合から去り、組合活動が停滞した時期もありました。しかし、ここ数年、支部会議が定期的に開かれ、支部の活動が活発になってきています。組合費の納入状況もよくなっています。組合員の数も減少し、頼れる力のある組合員もいなくなりましたが、みんなずつつていくという気持ちは、少しずつ強くなってきたように思います。

以前は、講師からすぐれた実践を学ぶという受け身な学習スタイルで行ってきた「教育講座」を、一人ひとりの実践を交流するという主体的なものへ変え、名前も「まなびバ」に変更しました。昨年度は、高教組とのさらなる連携ということもあり、網走教組の「まなびバ」に、高校の先生方もたくさん参加してくれています。

【教育講座】

主体的な学びのスタイルは「合宿研」でも取り入れられるようになり、一つのテーマにもとづき、参加した人たちが話し合ったり、実践を交流する「合宿研」に変わってきています。そして、三年ほど前から学習してきた「子どもたちにつけたい本當の学力」について、網走教組としての一定の結論を出すこともできました。

【教育全国署名】
以前は、署名活動は一人ひとりが、個人の力量に合わせて取り組んでいました。そういう中で、一人で七〇〇筆も集める組合員もいました。
今は、そういう力のある組合員はいませんが、街頭署名など、みんなで集まって署名活動を行うようになり、その取り組み方が定着しつつあります。このような取り組みによって、昨年度は、目標だった一、〇〇〇筆をはるかにこえ、一、五〇〇をこえる署名を集めることができました。

【合宿研】

「確かな学力・本當の学び」とは「確かな学力」とは与えられるものではなく、自ら学びとるものであり、「意欲や追求する力」であること。
○自ら学ぼうという意識が生まれ、生き

第85回メーデー多くの労働者が集い平和大行進



第85回メーデー
5月1日(木)、第85回メーデー北見集会が行われなわれ、網走教組からは、5名(山本、和田、能代、佐野、勝田)が参加しました。始めに、北見駅前広場にて集会が行われ、網走教組を代表して、和田書記長が教育をめぐる情勢について報告しました。その後、駅前広場から市内商店街を約150名の大行列でデモ行進しました。今年も気候も穏やかで、寒さに震えることなく行進することができました。

北見支部では、今年度は少し仮装にも力を入れようと、過去に作った物を事務所の二階から引っ張り出してきて、帽子や衣装などを用意しました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、賑やかに行進することができました。

同日、網走でもメーデー集会が行われ、網走労連に結集する仲間が交流を深めました。

国民平和大行進

今年度も、原水爆禁止国民平和大行進がスタートしました。5月6日(火)に網走市を出発し、5月7日(水)には北見市内での行進が行われました。

7日(水)17時40分から行われた集会には、北見支部より2名(山本、和田)が参加しました。原子力推進、戦争をすすめる国に向けて一直線に進んでいる安倍政権に対して、各団体から怒りの声が上がりました。参加者みんなで一層の団結を誓いました。その後、北見市内を平和への願いをこめて行進しました。

第二六回まなびバ



五月十日、本年度第一回の「まなびバ」が北見西小学校で行われ、授業づくり・学級づくりの交流が行われました。参加は組合員五名で、活発な意見交換が行われました。

レポートは、全部で三本出されています。一つ目は、遠軽南小の勝田先生の「T.Tの視点から感じること」というテーマ。これまでの担任と違った視点から学校教育に携わりたいという気持ちでスタートしたT.T。三、四年生の算数のT.Tで、今までで一番教材研究ができ、今、「教えたい！」という意欲が強くなっているということでした。
二本目は、北見支援の能代先生の「高等部一年B組の一月くそこで思うこと」と題して。教員四年目で初めての担任になった思いや決意が語られました。高校生同士お互いを認め合える関係を作っていく。三年先の就労について今から考えていかなければならない。そして、秋の現場実習に向け、子どもたちが自分の将来像をイメージできる取組を始めていくことが伝えられました。
最後は、北見西小の大坪先生の「豊かにつながり合う集団づくりのために」でした。今「困っている子」の姿が見えづらくなっている。子どもを信じて待つことの大切さや子どもが自己肯定感を持つことの大切さについて話されました。

生きと学び出した時、学んでいることや学んだことが、確かな力として身につけていくこと。
私たち網走教組では、この貴重な財産を力に、子ども達一人ひとりの「学びたい」という意欲を育てながら、集団的な学びに高めていく実践を大切にしていきたいと考えています。そして、「確かな学力」「本當の学び」のある学校にしていくためにも、足元の具体的な課題について、学年の教師集団や多くの同僚と語り、保護者や教育に携わる様々な人たちとの協力・共同を一層前進させていくことが重要だと考えています。
このような活動の変化は、組合員一人ひとりの意識の変化でもあります。組合費納入でも、四月の段階で、全組合員が昨年一年間の組合費を完納しました。このことも、最近の網走教組にはなかったことです。各支部の活動が充実してきたこと、各支部の会計担当の奮闘もありですが、やはり、一人ひとりの意識が変わり、網走教組全体が自ら活動する組合に変化してきたことが大きいのだと思います。「組合費、全員完納」は、全道・全国に誇れる輝かしい事実です。
今後、一人ひとりが支部活動を支え、充実した支部活動が網走教組をつくらせていくという思いをしっかりと持ち続けていきたいものです。